



平成 30 年 11 月 30 日

各 位

会社名 W A S H ハウス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 児玉 康孝
 (コード番号：6537 東証マザーズ・福証 Q-Board)
 問合せ先 常務取締役管理部長 阿久津 浩
 電 話 (0 9 8 5) - 7 8 - 4 0 0 0

業績予想の修正に関するお知らせ

平成30年6月15日に公表いたしました平成30年12月期通期連結業績予想及び平成30年2月9日に公表いたしました平成30年12月期通期個別業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、以下のとおりお知らせいたします。

●業績予想の修正について

1. 平成30年12月期連結業績予想数値の修正 (平成30年1月1日～平成30年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	4,011	300	301	186	27.29
今回修正予想 (B)	2,804 ～2,882	28 ～58	32 ～62	21 ～40	3.10 ～5.95
増 減 額 (B-A)	△1,206 ～△1,128	△271 ～△241	△268 ～△238	△165 ～△145	
増 減 率 (%)	△30.1 ～△28.1	△90.4 ～△80.4	△89.2 ～△79.2	△88.6 ～△78.2	
(注)ご参考：前期実績 (平成29年12月期)	—	—	—	—	—

(注) 当社は、当第3四半期から連結決算へ移行しており、前期実績につきましては記載を省略しております。

2. 平成30年12月期個別業績予想数値の修正 (平成30年1月1日～平成30年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	4,011	300	301	186	27.29
今回修正予想 (B)	2,864 ～3,004	49 ～103	53 ～107	34 ～69	5.03 ～10.16
増 減 額 (B-A)	△1,147 ～△1,006	△250 ～△196	△248 ～△194	△152 ～△117	
増 減 率 (%)	△28.6 ～△25.1	△83.6 ～△65.6	△82.4 ～△64.5	△81.5 ～△62.7	
ご参考：前期実績 (平成29年12月期)	3,375	243	247	156	22.94

3. 修正の理由

個別業績予想においては店舗管理部門、直営その他部門が概ね業績予想どおりに推移した一方で、フランチャイズ店舗を出店することで売上高を計上するFC部門において、出店数が前回業績予想の130店舗から減少し、83店舗から92店舗となり売上高が減少する見通しであります。

これは、東京、大阪、福岡を中心とした市街地での出店形態である都市型店舗開発に携わる管理者不足により出店が遅れたこと及び西日本豪雨や台風による災害の影響により既存エリアの深耕拡大が十分にできていないこと等の理由が原因であります。それに加えて、当初計画におきましては、第2四半期から都市型店舗の出店及び子会社による貸金業を開始し、双方のノウハウが成熟し始める第4四半期には、更に出店数が伸びてくる計画でありましたが、双方の開始が第3四半期となったことも大きな要因であります。

販売費及び一般管理費においては、営業担当以外の人材採用を控えたため人件費が前回業績予想より減少したものの、FC部門での出店数未達による売上高減少の影響が大きく、営業利益、経常利益、当期純利益はいずれも当初計画を下回る見通しであります。

(参考) 平成30年12月期 部門別売上高

(単位：百万円)

売上高	前回予想	連結		個別	
		今回予想	差額	今回予想	差額
FC部門	2,743	1,509 ～1,587	△1,233 ～△1,155	1,568 ～1,709	△1,174 ～△1,033
店舗管理部門	897	881	△16	881	△16
直営その他部門	371	413	42	413	42
合計	4,011	2,804 ～2,882	△1,206 ～△1,128	2,864 ～3,004	△1,147 ～△1,006

(注) 前回個別業績予想と前回連結業績予想での値は同値であります。

当社の連結子会社であるWASHHOUSEフィナンシャル株式会社（以下、「WHF」という）が平成30年8月1日から貸金業を開始いたしました。新規出店のうちWHF利用分につきましては、連結決算上では当該販売価格で売上高を計上できず、毎月の元金返済額に基づき売上高及び利益を計上することとなります。そのため、連結業績予想のFC部門売上高では個別業績予想との間に差異が生じることとなります。

なお、今回の連結業績予想は、新規出店数のうち3店舗から7店舗については貸金業利用での出店を想定しており、連結決算上で売上を計上できる出店数は80店舗から85店舗を想定しております。

今後更に新規事業を開始していく予定であります。各事業の管理体制だけでなく、各分野でグループシナジーが発揮できる体制づくりにも努めてまいります。また、今後の新規出店につきましては、社長自ら陣頭指揮を執り、従来の郊外型店舗に加え、東京、大阪を中心とした都市型店舗の出店を加速していく予定でございますが、今後も「売上が上がる場所」に拘って出店してまいります。

なお、今回レンジ形式で業績予想を修正いたしましたのは、年末の繁忙期に出店が重なる見込みであり、建築スケジュール等により案件の出店が来期へ持ち越しとなる可能性があるためであります。業績の見通しの精度が上がってきた時点で、レンジ形式から固定数値に修正する予定であります。

(注) 上記の予想数値は、現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上